

川崎市議会議員

三宅隆介

私

たち人間は、常に不確実な未来に向かって生きねばならぬ宿命を負っています。だからこそ市民は、行政が構築する制度やインフラに依存せざるを得ません。

私は、川崎市政を「緊縮財政」から「機能的財政」へと転換させ、役所を文字どおり「役に立つ所」につくり変えます。財政支出の拡大は必ず市内GDP(総生産)を引き上げますので、結果として市民所得と税収を増やし、様々な危機から市民を守るための制度やインフラを整備することができます。

三宅の視点、隆介の発想にご期待ください。

Ryusuke Miyake Custom

街の発展は駅前広場の整備から

区内各駅の駅前広場を整備

- 登戸駅前の高層ビル1階部分を公共スペースに(リムジンバスやコミュバスの乗入れを可能に)
- 小田急線の地下化で踏切除去と駅広空間の確保
- 小田急線生田駅と読売ランド前駅周辺を再開発
- 交差点の拡充(右左折レーン確保)で渋滞緩和

行き場のない患者をつくらない

医療提供体制の強化

- 聖マリアンナ医大の高度救命救急と新百合ヶ丘総合病院の救命救急の同時承認を(現在、川崎市内に高度救命救急は一つも無い)
- 療養病床の増設と在宅医療介護の充実
- 感染症の受け入れ病床の拡充強化
- アレルギー対策の強化(市立病院に専門外来を)

多摩区の浸水被害対策を強化

治水の原則は少しでも水位を下げる

- 川幅の拡張、河川の付替え、川底の浚渫、遊水地の整備などの総合力で水位を下げる(堤防への過剰な負荷が最も危険)
- 三沢川と多摩川の接続部分に排水圧送ポンプを設置
- 小河内ダムの多目的(治水・利水)ダム化を国に要望(現在、多摩川に治水目的のダムが一つも無い)

財源論に陥ったら政策論は負け

正しい貨幣観(財政論)の普及啓発

- 収支均衡主義の「家計簿財政」は間違い
- 行政は歳出が先で歳入が後(家計簿の逆)
- 行政の赤字が市民の黒字をつくる
- 税収はGDPに、GDPは財政支出に比例する
- 日銀による地方債の買い入れを国に提案

なぜ今、保守の逆襲が必要なのか!

現在の川崎市政は、都市計画ゼロの「革新市政」で30年、構造改革と緊縮財政の「ネオリベ市政」で22年という歴史を経て成立しています。

都市計画ゼロの革新市政であったがゆえに、例えば多摩区の交通インフラは未だ脆弱のまま、区内には32箇所もの踏切が残り、各駅の駅前広場は広場の体を成していません。

また、多摩区の都市計画道路の整備率は未だ54%と低く交通渋滞も慢性化しています。

高齢化により市バスやコミュニティバス等の充実が求められているにもかかわらず、バス路線は縮小される一方です。

あるいは、ネオリベリズム(新自由主義)に基づく構造改革と緊縮財政は、行政によるインフラ投資を抑制させ、防災対策や各種の福祉サービスをも縮小させました。

3年前の台風19号では三沢川が氾濫越流したのは記憶に新しいところです。

また、多摩区を含む川崎市北部は全国で最も高齢化スピードの早い地域であるにもかかわらず、圧倒的な療養病床の不足を招いており「行き場のない患者」問題を深刻化させています。

本来、セーフティネットであるはずの市立病院にさえ思うように入院することができないのも、市立病院に黒字経営を求めるネオリベ市政の元凶です。

なお、これらの様々な弊害が市内経済から成長力を奪い、そのことがまた市の財政に制約をもたらすという悪循環に陥っています。

私たち人間は、常に不確実な未来に向かって生きねばならぬ宿命を負っています。だからこそ、市民だれもが行政の構築する制度やインフラに依存せざるを得ません。国際環境や人口構造の変化、あるいは自然災害の発生公算の高まりなど、私たちをとりまく不確実性はより高まっています。

ゆえに、行政の果たすべき役割は益々もって大きくなっています。

しかしながら、行政の役割や能力を小さくする「革新思想」や「ネオリベリズム」は、保守思想とは一線を画すものです。

現実を直視できるリアリズムを備え、歴史の叢智に学び、良きものを破壊から守り、漸進主義的な改革によって不確実性から国民を守っていくのが私の考える保守思想です。

とりわけ、保守がもつべき財政思想は「健全財政」ではなく「機能的財政」です。

税収は市内経済(GDP)に相関しますので、健全財政(緊縮財政)から機能的財政(積極財政)に転じることで市内経済を成長させ、市民の所得を引き上げ、様々な危機から市民を守るための役所をつくります。

役所とは、文字どおり「役に立つところ」でなければなりません。

今、川崎市政には「保守の逆襲」が求められていることを確信します。



詳しい内容はYou Tubeでも!



<http://ryusuke-m.jp/>

三宅隆介



三宅隆介プロフィール

昭和46年3月23日生まれ。
大東文化大学文学部 卒業。ユアサ商事株式会社を経て、
衆議院議員 松沢しげふみ秘書。
平成15年4月 川崎市議会議員 初当選、現在6期目。
川崎市多摩区中野島在住。